

二〇一〇(平成二二)年度 研究所報告

一 組織

所長 藤嶽 明信 (兼真宗総合学術センター長)
主事 山本 和彦
委員 門脇 健 (文学部長)
長谷岡英信 (事務局長)

織田 顕祐 (大学院文学研究科長)

徳岡 博巳 (短期大学部長)

木越 康 (学生部長)

松川 節 (入学センター長)

一楽 真 (教授・真宗学)

乾 源俊 (教授・中国文学)

兵藤 一夫 (教授・仏教学)

古川 哲史 (准教授・歴史学／比較文化・社会

論)

二 研究組織

(特別指定研究)

大谷大学親鸞聖人七五〇回御遠忌記念特別指定研究

研究課題 親鸞像の再構築

研究員 延塚 知道 (研究代表者・教授・真宗学)

一楽 真 (教授・真宗学)

池上 哲司 (教授・倫理学)

山野 俊郎 (教授・仏教学)

渡辺 啓真 (教授・倫理学)

東館 紹見 (准教授・日本仏教史学)

山田 恵文 (講師・真宗学)

嘱託研究員 平 雅行 (大阪大学教授)

小山 正文 (同朋大学仏教文化研究所研究顧問)

問)

安富 信哉 (特別任用教授)

研究補助員 大畑 啓 (博士後期課程在学)

法水 淳一 (博士後期課程在学)

(指定研究)

国際仏教研究

研究課題 諸外国における仏教研究の動向の把握と資料の

整理・収集・公開)

研究員 ロバート F・ローズ (研究代表者・キャップ・教授・仏教学)

浅見直一郎 (キャップ・教授・東洋史学)

飯田 剛史 (教授・宗教社会学)

加来 雄之 (教授・真宗学)

桂華 淳祥 (教授・東洋史学)

ディディエ・ヴェステル（教授・フランス語・

フランス文化）

番場 寛（教授・フランス語・フランス文学）

井上 尚実（准教授・真宗学）

藤枝 真（准教授・哲学・宗教学）

松浦 典弘（准教授・東洋史学）

村山 保史（准教授・西洋哲学）

廣川 智貴（講師・ドイツ文学）

箕浦 曉雄（講師・仏教学）

嘱託研究員 Michael Pye（ヤールブルク大学名誉教授・本

学客員教授）

Paul Watt（テボール大学教授）

Mark L. Blum（ニューヨーク州立大学准教授）

羽田 信生（毎田周一センター所長）

江田 憲治（京都大学大学院教授）

井黒 忍（早稲田大学高等研究所助教）

研究補助員 圓山 亜美（博士後期課程満期退学）

王 奕明（博士後期課程在学）

山高 秀介（博士後期課程在学）

斎藤 覚（博士後期課程在学）

西蔵文献研究

研究課題 チベット語文献のデータベース化

研究員 兵藤 一夫（研究代表者・教授・仏教学）

福田 洋一（教授・仏教学）

嘱託研究員 小谷信千代（本学名誉教授・特別研究員）

白館 戒雲（本学名誉教授・特別研究員）

更 尓（青海民族大学蔵学院副教授）

ダシュニョバラニ（本学非常勤講師・特別研究員）

宮本 浩尊（本学非常勤講師）

研究補助員 林 哲照（博士後期課程満期退学）

渡邊 温子（博士後期課程在学）

大谷大学DB研究

研究課題 大谷大学所蔵貴重資料のデジタル映像化

研究員 宮下 晴輝（研究代表者・教授・仏教学）

柴田みゆき（准教授・情報処理学）

山本 貴子（准教授・図書館情報学）

酒井 恵光（講師・人情報学）

嘱託研究員 清水 洋平（本学非常勤講師）

岡本 隆明（立命館大学PDフェロー）

研究補助員 松下 俊英（博士後期課程満期退学）

稲葉 維摩（博士後期課程在学）

真宗同朋会運動研究（和田稠氏の寄付金による特別研究）

研究課題 真宗同朋会運動の歴史と現状を「聞き書き」を

通して把握し、その現代的意義を明らかにする

研究員 水島 見一 (研究代表者・教授・真宗学)

佐賀枝夏文 (教授・社会福祉学)

富岡 量秀 (講師・真宗学・幼児教育学)

研究補助員 佐々木秀英 (博士後期課程在学)

安居 宏淳 (博士後期課程在学)

〔資料室〕

大谷大学史資料室

整理課題 大学史関係資料の収集・整理

資料室長 山本 和彦 (研究所主事・准教授・仏教学)

研究補助員 大畑 博嗣 (博士後期課程満期退学)

香月 拓 (博士後期課程在学)

真宗本廟(東本願寺)造営史資料室

整理課題 真宗本廟(東本願寺)造営史関係資料の整理と出版

資料室長 平野 寿則 (准教授・日本近世史・仏教史)

研究員 川端 泰幸 (任期制講師・日本中世史)

研究補助員 大谷めぐみ (博士後期課程満期退学)

吉田 仁美 (博士後期課程在学)

拝原 祥子 (博士後期課程在学)

〔一般研究／共同研究〕

研究課題 元朝期～明朝初期の言語接触に関する文献学的

研究

研究員 渡部 洋 (研究代表者・准教授・中国語・近世中国語文法)

松川 節 (教授・東洋史学・人情報学)

協同研究員 小野 浩 (京都橘大学教授)

古松 崇志 (京都大学人文科学研究所助教)

石野 一晴 (千里金蘭大学非常勤講師)

毛利 英介 (神戸女子大学非常勤講師)

研究協力員 伴 真一朗 (博士後期課程満期退学)

研究課題 日本における西洋哲学の初期受容―清沢満之の

東京大学時代未公開ノートの調査・分析―

研究員 池上 哲司 (研究代表者・教授・倫理学)

加来 雄之 (教授・真宗学)

研究員 門脇 健 (教授・宗教学)

朴一 功 (教授・西洋古代哲学)

村山 保史 (准教授・西洋哲学)

藤田 正勝 (京都大学大学院教授)

協同研究員 竹花 洋佑 (本学任期制助教)

西尾 浩二 (本学非常勤講師)

研究協力員 竹中正太郎 (博士後期課程満期退学)

研究課題 仏教と教育の関係性に関する批判的基礎的研究

―「慈育」構築の根拠を求めて―

研究員 川村 覚昭 (研究代表者・教授・教育哲学・教育人間学・仏教教育学)

関口 敏美 (教授・教育学・日本教育史)

高山 芳治 (教授・社会科教育学)

山内 清郎 (准教授・教育人間学・臨床教育学)

木越 康 (准教授・真宗学)

協同研究員

田中久美子 (准教授・社会心理学・教育心理学)

大野 僚 (本学非常勤講師)

研究課題

浄土真宗における社会実践展開の再構築―保育・教育・福祉への視座―

研究員

佐賀枝夏文 (研究代表者・教授・社会福祉学)

水島 見一 (教授・真宗学)

富岡 量秀 (講師・真宗学・幼児教育学)

真城 義磨 (大谷中・高等学校長)

協同研究員 脇淵 徹映 (大谷保育協会理事長)

研究課題

線分交叉を伴う系図表示の基礎的研究

研究員 柴田みゆき (研究代表者・准教授・情報処理学)

宮下 晴輝 (教授・仏教学)

協同研究員 松浦 亨 (北海道大学附属大学病院企画マネージャー)

生田 敦司 (本学非常勤講師)

杉山 正治 (立命館大学情報理工学部助教)

山口 直文 (ヒロセ(株)東京本店総務管理部管理チーム)

研究課題

オリヤー文字サンセット具葉写本調査

研究員 山本 和彦 (研究代表者・准教授・仏教学)

兵藤 一夫 (教授・仏教学)

協同研究員 ダッシュヨバニ (本学非常勤講師・特別研究員)

研究協力員 Parimal Pati (ハーヴァード大学准教授)

Aniban Dash (サールナート・チベット学中央大学講師)

研究課題

ポタラ宮所蔵ステイラマティの俱舎論注釈書『真実義』の新出梵文写本研究

研究員 小谷信千代 (研究代表者・本学名誉教授・特別研究員)

箕浦 暁雄 (講師・仏教学)

協同研究員 松田 和信 (佛教大学教授)

福田 琢 (同朋大学教授)

本庄 良文 (佛教大学特別任用教授)

秋本 勝 (京都女子大学教授)

研究課題

石刻史料からみた宋元時代華北地方における佛教の社会的変遷に関する基礎研究

研究員

石刻史料からみた宋元時代華北地方における佛教の社会的変遷に関する基礎研究

研究員

石刻史料からみた宋元時代華北地方における佛教の社会的変遷に関する基礎研究

研究員

石刻史料からみた宋元時代華北地方における佛教の社会的変遷に関する基礎研究

研究員

石刻史料からみた宋元時代華北地方における佛教の社会的変遷に関する基礎研究

研究員

石刻史料からみた宋元時代華北地方における佛教の社会的変遷に関する基礎研究

研究員

石刻史料からみた宋元時代華北地方における佛教の社会的変遷に関する基礎研究

研究員 桂華 淳祥 (研究代表者・教授・東洋史学)

浅見直一郎 (教授・東洋史学)

協同研究員 藤原 崇人 (東京外国語大学アジア・アフリカ

言語文化研究所共同研究員)

井黒 忍 (早稲田大学高等研究所助教)

福島 重 (本学任期制助教)

論)

研究課題 京都北山の地形・地質形成と文化

研究員 鈴木 寿志 (講師・地質学・古生物学)

研究課題 ダイエット行動の「三日坊主」に対する予防・

教育的プログラムの実証的研究

研究員 田中久美子 (准教授・社会心理学・教育心理学)

研究課題 世界遺産エルデニゾー僧院に関する総合的研究

—過去の復元から未来への保存へ—

研究員 松川 節 (研究代表者・教授・東洋史学・人

文情報学)

研究課題 日本で発見されたオリヤー語『マハーバーラタ』

の研究

研究員)

(一般研究／個人研究)

研究課題 変動期の社会における法秩序の再構築—南アフ

リカとカンボジアの比較社会学的研究

研究員 阿部 利洋 (准教授・社会学)

研究課題 チベット仏教における論理学の研究

研究員 白館 戒雲 (本学名誉教授・特別研究員)

研究課題 民族文化祭の比較研究

研究員 飯田 剛史 (教授・社会学)

研究課題 高次脳機能障害者とその家族のピアサポートに

よる自己と関係の変容に関する発達の研究

研究課題 世界史における東アジアとアフリカ—国際共同

研究のための基盤形成—

研究員 古川 哲史 (准教授・歴史学／比較文化・社会

研究課題 ルネサンス詩におけるアレゴリーの変容—ロン

サルからキリアンへ—

研究員 林 千宏 (本学任期制助教・特別研究員)

研究課題 フレデリック・ダグラス晩年のマスキュリニテ

イ言説とアメリカ社会における人種表象

研究員 朴 珣 英（本学任期制助教・特別研究員）

研究課題 貧困に対する活動と社会的レジリエンスの社会

学的研究—シカゴ学派からの展開と実践

研究員 西川 知亨（本学任期制講師）

研究課題 タイ国中部地域の王室寺院が所蔵する東南アジア

ア撰述仏教説話写本の研究

研究員 清水 洋平（本学非常勤講師・特別研究員）

三 指定研究の動向

大谷大学親鸞聖人七五〇回御遠忌記念特別指定研究

本研究班は、二〇一一年の親鸞聖人七五〇回御遠忌に向けて発足した特別指定研究班である。「親鸞像の再構築」というテーマを掲げているように、前回御遠忌以降の五〇年間ににおける親鸞研究の動向を踏まえて、これからの親鸞研究に新たな展望を開くことを目的としている。

一、御遠忌記念論集『親鸞像の再構築』の企画・編集

本研究班では「親鸞像の再構築」という研究テーマの下、公開研究会を重ね、現在の親鸞研究における課題をこれまでに議論してきた。そして、思想、歴史、現代という三つの分

野を掲げて、それぞれの分野における親鸞研究の方向性を以下のように確認してきた。

- ① 『教行信証』の思想に基づく親鸞像を再構築する。
- ② 実証史学に基づく史実上の親鸞を究明するとともに、伝承上の親鸞像を再構築する。
- ③ 親鸞の他力思想を導きとして、現代における諸問題の解決の端緒を見出す。

昨二〇〇九年度はこの三つのコンセプトに沿った論集を企画し、各執筆予定者より題目と論文のキーワードを提出いただいた。論集の目次を作成し、構成を具体化した。

本年度は、各執筆者より論文を提出していただき、内容の整理に着手した。そして、出版社と交渉を重ねる中で、内容のタイトルの検討、目次の整理（編目項目名の変更、各論文タイトルの変更）、各部門の内容の要約などを行った。その結果、論集の形態は上下二巻とし、上巻は『教行信証の思想』と題して、その中、『教行信証』への視座」と『教行信証』読解を巡る問題」という二つの部門を設け、主として思想面からの研究成果を公表することとした。下巻は「親鸞像の再構築」と題して、その中の前半には「歴史の中の親鸞」とし、歴史学の分野からの研究成果を掲載する。また後半は「現代に生きる親鸞」とし、親鸞思想を基盤にして近現代という時代とその時代の問題・課題に光を当てる論稿を収めることとした。下記に各部門のコンセプトを掲げることによって、論集の全体像を提示する。

上巻 『教行信証』の思想

・『教行信証』への視座

明治以降、『歎異抄』が広く開放されたことにより一般的親鸞像が形成されてきた。しかし『歎異抄』は親鸞の著作ではなく弟子の聞書である。親鸞思想をより深く、また確かに究明していくためには、親鸞の主張である『教行信証』の思想に依らなければならぬ。本篇においては、「念仏」「信心」「救い」「浄土」という親鸞思想における重要な四項目を掲げ、『教行信証』に基づいた親鸞の他力思想を明らかにすることをねらいとする。

・『教行信証』読解を巡る問題

『教行信証』を読解していくに当たって浮き彫りになる諸問題を扱う。例えば『教行信証』の構造論や、テキストの読解方法については諸見解があるが、これらの問題を再検討する視座を提示したい。また『教行信証』の成立に関わる問題として、親鸞がどのような時代・社会と向き合う中で執筆したのかを検討する。そのことによって当時の社会構造や価値観や末法思想という時代認識について考察する視座を提供したい。

下巻 親鸞像の再構築

・歴史の中の親鸞

大正十年、『恵信尼消息』が発見されて、従来不確かであった史実上の親鸞の姿が明確になった。それ以降、実証史学に基づいて史実上の親鸞を明らかにしていくことが歴史学の課

題となり多くの成果を上げてきた。そこでの未だ究明を要する問題を明らかにするとともに、実証史学からは等閑視されてきた伝承上の親鸞像の考察をも課題とすることで、信仰の広がりの中で語り継がれてきた親鸞像を明らかにすることを目的としている。

・現代に生きる親鸞

二十世紀中葉においては主体の自立という問題が焦眉の課題であり、七〇〇回忌（一九六一年）の頃の親鸞もそのような文脈で読まれた。しかし、一方では「他者との関係によって基礎づけられる主体」という視点が軽視され、自立が孤立を招来し多くの社会問題を惹起することになった。本篇では、近代における親鸞の思想の受容をたどるとともに、親鸞の「他力」の思想を導きとして現代の問題の解決の端緒を見出し、新たな主体の再構築の可能性を開く。

二、文献目録の作成

前回の御遠忌以降の五〇年間（一九六一〜二〇一一）にわたる親鸞研究を概観するのに資するデータベース並びに文献目録の作成を目指している。データの入力に当たっては、『親鸞大系』別巻（法蔵館）所収の文献目録と『仏教書総目録』No.1〜No.2八（仏教書総目録刊行会）を活用している。本年度は、特に日本語文献の単行本を対象を絞って、データの入力作業を行った。『親鸞大系』所収の文献目録からは、一九六一年から一九八二年までに発刊された単行本を抽出し、これの入力作業を完了した。また一九八三年から二〇一一年まで

に発刊（または発刊予定）の単行本は、『仏教書総目録』を用いて入力作業を継続的に遂行中である。今年度末には、単行本の入力作業を完了する予定である。

国際仏教研究

本研究は、諸外国における仏教を中心とした宗教研究の動向を把握するとともに、国際社会に対して本学の真宗・仏教研究を公開することを目的としている。本年度も英語班、ドイツ・フランス班、中国班の三班に分かれて研究活動を進めてきた。各班の研究経過の概要は以下の通りである。

〈英語班〉

I. 翻訳研究活動

(1) *Cultivating Spirituality: A Modern Shin Buddhist Anthology* 出版にこころ

近代教学論文集英訳出版に向けて、入稿後に必要となったグロッサリーを九月から十月にかけて作成し、SUNY出版に送った。その後、出版社側で来年度早期の発行に向けて作業が進行中である。

(2) 佐々木月樵「大谷大学樹立の精神」翻訳研究について

新たな翻訳研究として、昨年度はじまった佐々木月樵の「大谷大学樹立の精神」英訳は、以下の日程で翻訳研究会を行った。

第一回研究会 二月二十二日 一六時～一八時
第二回研究会 三月一日 一六時～一八時

本年度は、日程の都合で研究会の回数が十分取れなかった。来年度も継続して翻訳を終わりまで行い、改めて全体を通した編集校正を経て、公開できるところまで進める予定である。

II. 国際学会関係

(一) 国際真宗学会 (IASBS)

二〇一一年度、大谷大学を会場に第一回国際真宗学会学術大会が真宗関係五大学共同開催の形で開かれる。それに向けて、今年度は国際研英語班が窓口となり、関係大学実行委員が合同で準備を進めた。

第一回準備会議 九月十四日（火）一六時～一八時

於：響流館四階会議室

参加者：ケネス・タナカ (IASBS 会長・武蔵野大学)、浅野

玄誠 (同朋大学)、那須英勝 (龍谷大学)、寺本知正

(IASBS 日本地区会社)、ロバート・ローズ、加来雄之

井上尚実 (大谷大学)

・学術大会の概要

開催期日：二〇一一年八月五日（金）・六日（土）（四日の

夕方に記念シンポジウム）

場所：大谷大学 響流館三階メディア・ホール、マルチ・

メディア演習室

テーマ：True Disciple of the Buddha 真仏弟子

サブテーマ：The Mission and Challenges in Contemporary Society

現代社会における課題と使命

・論文発表申込みは二月末締め切り。四月には学内実行委員

会立ち上げ、窓口を引き継ぐ。

(1) ヨーロッパ日本研究協会 (EJJS)

三年に一度のEJJS国際会議が、二〇一一年の八月二十四日から二十七日まで、エドモントンのタリノ大学で開催される。前回に続いて宗教・思想史部会での発表を計画して申込み、審査を通してパネル発表が認められた。概要は以下の通り。

Panel Title: Spiritual Healing in Japanese Pure Land Buddhism: Cures for Suffering in Genshin's and Shinran's Thought

Presenters: 1. Robert RHODES, professor (Buddhist Studies)

2. INOUE Takami, associate professor (Shin Buddhist Studies)

3. Michael CONWAY, lecturer (Shin Buddhist Studies)

(三)その他
アメリカ宗教学会(AAR)年次大会については、学内行事と重なって今年度は参加できなかった。国際真宗学会ヨーロッパ支部大会は、主催者の都合でキャンセルになった。アジア学会(AAS)年次大会は、例年三月末から四月初めの時期に開催されるため参加が難しい。来年度は、日程調整を早めにして参加できるように検討したい。

III・公開講演会の開催

以下のような公開講演会を開催した。

(一)二〇一〇年六月十七日(木)一六時二〇分～一七時五〇分

於：マルチメディア演習室(響流館三F)

講師：ケネス・タナカ氏(武威野大学教授・国際真宗学会会長)

題目：Internationalization of Shinshu and the Role of IASBS: Towards the 15th Biennial Conference at Orani University in August, 2011

「真宗の国際化と国際真宗学会の役割：二〇一一年八月大谷大学に於ける第一五回学術大会に向けて」

(二)二〇一一年二月十日(木)一六時二〇分～一七時五〇分
於：マルチメディア演習室(響流館三F)

講師：奥村浩基氏(台湾佛光大学・専任助理教授)
題目：「台湾の仏教と仏教研究」

他に講師依頼を検討していた研究者が海外の大学に移ったりしたために、予定した四回の開催はかなわなかった。

IV・その他

国際研が収集した図書の整理・公開については、図書館と連携して作業を継続中である。英語班のホーム・ページ作成についても、引き続き準備の段階にあり、来年度に継続して取り組む予定である。

〈ドイツ・フランス班〉

一、二〇一〇年五月五、六日に、パリにてフランス国立高等研究院(EFHE)とのシンポジウム「フランスと日本におけるナショナル・アイデンティティと宗教」が開催された。同院と本学は学術協定を結んでおり、二〇〇六年には本学におい

て大谷大学真宗総合研究所・EPHE合同シンポジウム「宗教と近代合理的精神―日仏文化の比較をとおして」が開催されており、今回のシンポジウムはその続編ともいえるものである。シンポジウムプログラムは、以下の通りである。

五月五日

開会の挨拶 フィリップ・ホルティエ (EPHE・ソルボンヌ

大学教授、G SRL 主任研究員)

司会 シャンリノエル・ロベール (EPHE・ソルボンヌ大学
教授)

ロバート・F・ローズ (大谷大学教授)

The Buddhist-State Relationship in Japan: Some Observations on the Thought of Saichō and Kūkai, Two Early Medieval Monks of the Ninth Century (日本における仏教と国家―最澄と空海の思想についての一考察)

ドゥニ・ブルティエ (EPHE・ソルボンヌ大学教授、G SRL
研究員)

Entre Vichy et la Résistance: qu'est-ce que la "France catholique" (1940-1944)? (ヴァシーとレジスタンスの間―「フランス・カトリック」とは何か [一九四〇―一九四四])

井上尚実 (大谷大学准教授)

The Transformation of Japanese Buddhism during the 19th century: Focusing on the Impact of the Meiji Restoration and the Persecution of Buddhism (一九世紀に於

ける仏教の変容―明治維新と廃仏毀釈の影響を中心に)
司会 ヴァンサン・ゴージェール (G NRS 教授、G SRL 研究員)

シャンリノエル・ヴィレーム (EPHE・ソルボンヌ大学教授、G SRL 研究員)

Identite nationale francaise et protestantisme (フランス

のナショナル・アイデンティティとプロテスタントイズム)

村山保史 (大谷大学准教授)

State and Religion in the Thought of D. T. Suzuki (鈴木大拙の思想における国家と宗教)

ティエリー・ルテール (マイアミ大学 [米国オハイオ州]
政治学教授)

Pour une sociologie politique de la laïcité en France (フランスにおける世俗化の政治社会学試論)

五月六日

司会 フラン・ロシエ (EPHE・ソルボンヌ大学教授)

飯田剛史 (大谷大学教授)

The Contemporary Situation of Japanese National Identity: Co-existence vs. Anti-foreign Movements (日本のナショナル・アイデンティティの現状―共存と反外国人運動)

シャン・ボンロ (EPHE・ソルボンヌ大学名誉教授、G SRL
主任研究員)

Laïcité et identite nationale sous la Veme Republique

(第五共和国下における世俗化とナショナル・アイデンティティ)

藤枝真 (大谷大学准教授)

Indoctrinating the Younger Generation: A Strategy of Yasukuni Shrine for the Propagation of Patriotism (若い世代の教化—靖国神社の愛国心普及戦略)

司会 フィリップ・ホフマン (EPHE・ソルボンヌ大学教授、宗教学部学部長)

ビュール・ビルンボーム (パリイ大学・ソルボンヌ大学名誉教授)

Eglise et Etat en France et aux Etat-Unis (フランスとアメリカ合衆国における宗教と国家)

番場寛 (大谷大学教授)

Essai sur le discours religieux dans le Japon contemporains: autour des différents noms de Shinran et du Nanamidaibutsu (宗教の〈テキストスタイル〉への試論—親鸞と南無阿弥陀仏の異名をめぐって)

フィリップ・ポルティエ (EPHE・ソルボンヌ大学教授、GSRLL 主任研究員)

Le retour de la question de l'identité nationale dans la France contemporaine (現代フランスにおけるナショナル・アイデンティティの問題の再来)

閉会の挨拶 ジャン＝ポール・ウィレーム (EPHE・ソルボンヌ大学教授、GSRLL 主任研究員)

二、二〇一〇年八月十五日〜二十一日にトロント大学(カナダ)で開催された第二〇回国際宗教学・宗教学史学会学術大会 (XXth World Congress of the International Association for the History of Religions) に藤枝真研究員(本学准教授)が参加した。今回の大会の全体テーマは「Religion: A Human Phenomenon (宗教: 人間による現象)」であり、これは「宗教の超越性」を強調するのではなく、宗教を人間の一つの営みとして捉えることを意図したものである。藤枝研究員は、「Keeping Up the Grand Narrative: National Identity and State Shintoism in the Public Sphere」(「大きな物語」を保ち続けること: 公共領域におけるナショナル・アイデンティティと国家神道)というテーマで発表した。

三、村山保史研究員(本学准教授)、廣川智貴研究員(本学専任講師)、藤枝真研究員(本学准教授)によって、マールブルク大学神学部 Dietrich Korsch 教授の Luther-Eine Einführung (Mohr Siebeck) の翻訳が進められている。全体の訳が一度完了し、その検討作業が続いている。

〈中国班〉

①大谷大学図書館所蔵真宗大谷派海外布教資料(通称: 田代文庫所蔵)の目録作成

中国華中関連の綴資料(仮番号二六)の目録作成作業を継続中。引き続き、残された資料(中国華南・台湾、朝鮮半島関係)に順次着手する。

②中国社会科学院歴史研究所との共同研究

一、二〇一〇年七月五日(月)～十一日(日)、齊克琛副
 研究員、常建國事務主任、李錦繡研究員を招聘し、淺見直
 一郎研究員、桂華淳祥研究員、松浦典弘研究員とともに
 本学にて研究活動を行い、公開研究会を開催した。

七月十日(土)一六時一〇分～一七時三〇分(於…響
 流館四階 真宗総合研究所ミーティングルーム)

○固原出土史詞賦墓誌考証

中国社会科学院歴史研究所 李錦繡研究員

二、二〇一一年二月二十八日(月)～三月六日(日)、李花
 子副研究員、賈衣肯副研究員を招聘し、淺見直一郎研究
 員、桂華淳祥研究員、松浦典弘研究員とともに本学にて
 研究活動を行い、公開研究会を開催した。

三月二日(水)十六時～十八時(於…響流館3階 マ
 ルチメディア演習室)

○《魏書序紀》在探討蒙古高原古代游牧民族發展史問
 題中的史料價值

中国社会科学院歴史研究所 賈衣肯副研究員

○図們江水源与中朝境界

中国社会科学院歴史研究所 李花子副研究員

西藏文献研究

北京版チベット大蔵経をはじめとする本学所蔵チベット語
 文献は、国内有数のコレクションを誇っており、本学はもと
 より国内外のチベット研究を大きく支えている。本研究は、

チベット研究推進のための基盤整備のため、このコレクショ
 ンを専門の研究者が十分に活用できるよう整理研究すること
 を目的とする。今年度の研究では、近年収集されたチベット
 語文献について、その整理を通じて全体像を把握し、それを
 研究者にとって理解しやすいように提示できるようにする。
 また、重要なし貴重と思われる文献について、そのテキス
 ト入力・校正・公開をおこなう。

一、大谷大学図書館所蔵チベット語文献のデータベース化・
 電子テキスト化

ツァンナクパの『量決択』の電子テキストを作成した。本
 書はダルマキールテイの名著の一つ『量決択』に対する古い
 注釈書であり、ゲルク派以前の初期チベット論理学の代表的
 な著作の一つである。現在のところ大谷大学所蔵の写本が唯
 一の資料である。原本は、ウメ(草書)体で書かれ、古風な
 綴りや縮約された表記が用いられ、また注釈の方法や議論内
 容がゲルク派以降の整理されたものとは異なるため、容易に
 は読解できない。これについて理解しやすいテキストを提供
 するために、以下のような手順で作業を進めた。

- Tibetan Language Kitを使って、電子テキストとして入
 力する。
- ゲシエ・ハラソバ位(国家的な博士号)を取得したチベッ
 ト人に写本による校正を依頼する。
- 同様に、古風な綴り、縮約された表現、古典文法に合わな
 い表記などについて、読解の助けとなり、また検索にも資

するよう、古典チベット文語の表記を併記してもらう。
・以上の校正内容・注記を写本と照合して再チェックしながら、電子テキストに入力する。

・注釈は構造的に書かれているが、科文は後代のように明確に記述されていないので、内容に従って科文を抽出し入力する。

以上の作業のうち、テキストと校異の入力は、年度内に終わることができる見通しである。科文については、全体の半分を終了できる見通しである。

さらに、注釈対象である原典の『量決択』の対応箇所を探し出し、『量決択』のテキストも織り込んだエディションを作成することを目指したい。

二、大谷大学図書館所蔵チベット語文献の整理

現在の図書館の検索システムでは、チベット語文献の全体像を把握することは難しい。チベット語文献だけを抽出する方法がなく、また、刊行物の書誌情報には、その本に含まれるチベット語文献自身のタイトルや著者名が記載されていないことが多いが、研究者が検索する場合には、刊行物のタイトルなどではなく、著作自身のタイトルなどで検索することになる。また、文献を探し出すことができないことになる。

また、チベット語をローマ字で翻字している場合、その翻字の方法が複数あるため、検索者の使う翻字システムと一致しない可能性がある。

昨年度の予備調査では、さらにカードにはあるがデータバ

ースに入力されていないタイトルや、未登録のタイトルもあることが分かった。

以上を踏まえて今年度は、書庫の中で実際にチベット語の著作であるかどうかを一々のタイトルについて実見し、チベット語文献の全てに渡って実際のテキストのタイトルを、現在広く用いられている翻字システムで統一的に追加入力した。以上について一通りの入力は終わることができた。

しかし、現在、図書館のデータベースシステムが新しいシステムに移行する切り替え期にあたり、最終的なチェックや、新システムでのエラーが出るか否かの検証は終了していない。

また、アメリカの Tibetan Buddhist Resource Center から図書館が購入したチベット語文献の PDF コレクション（現在までにインド、ネパール、ブータンなどで刊行されたチベット語文献の大部分をスキャンして PDF 化したもの）を学内でアクセスできるようにする簡便なページを作成した。より詳細なシステムについては、来年度の課題としたい。

三、海外の研究者との交流

八月一日〜二日にカナダのバンクーバーで開催された国際チベット学会には、囑託研究員のツルティム・ケサン名誉教授を派遣し、海外の研究者との学術交流を行った。

また一二月に青海民族大学蔵学院のクンガ氏を招聘して共同研究を行った。

四、その他

以下の公開研究会を開催した。

・野村正次郎氏 (広島修道大学非常勤講師)

題目…iPodにおけるチベット語の利用について

日時…二〇一〇年一月三日(火)午後四時二〇分

会場…響流館三F マルチメディア演習室

・クンガ氏(西藏文献研究班囑託研究員・青海民族大学蔵学院教授)

題目…ミラレーバ研究の価値

日時…二〇一〇年二月一日(火)午後六時〜午後七時

半

会場…響流館三F マルチメディア演習室

また、科学研究費補助金研究成果公開促進費による「北京版西藏大蔵経データベース」(研究代表者…兵藤一夫)にかかわる北京版大蔵経の写真撮影に際して、原資料や番号などのチェックに協力した。

大谷大学DB研究

*北京版チベット大蔵経

日本学術振興会平成二二年度科学研究費補助金を受け、本学所蔵、北京版チベット大蔵経のデジタルデータ化とその公開に向けて、作業を進めた。現在、テンギュルの中で中観部・唯識部の写真撮影が終了し、公開へ向けての調整が行われている。

*『北京版チベット大蔵経』マイクロフィルム

大谷大学図書館所蔵『北京版チベット大蔵経』マイクロフ

ィルム(計一八六本)は一次資料の代替資料として学術的価値が高い。中でもテンギュル(一三四本)に所蔵される中観部、諸経疏部、唯識部、阿毘達磨部は学内外問わず利用頻度が高い。よって、まずテンギュルの中観部・諸経疏部・唯識部・阿毘達磨部のマイクロフィルムのスキヤニングを計画した。作業準備として、マイクロフィルムリーダーをWindows PCと接続し、PDF形式でスキヤニング、外部記憶装置に保存する作業手順を計画した。この作業手順を踏むことでWindows PCモニターにスキヤンした画像を肉眼確認できることから作業効率の向上ができた。

作業内容はマイクロフィルムの選定、デジタル化記録、マイクロフィルムの保存法である。上に示したように、学術的価値が高い中観部、諸経疏部、唯識部、阿毘達磨部のスキヤニングをはじめに行い、現在ではテンギュルに所蔵される大蔵経はすべてPDF形式で記憶された。記憶媒体は外部記憶装置二台によるミラーリング、加えてDB研究班が用いているiMacに保存した。現在では約一五〇本のスキヤニングが終了した。

*真宗関係文化財

一、安田理深の音声テープ

本カセットテープは、安田理深による講義を録音したものである。作業開始段階において、内容把握済みのものが五一本、内容不明のものが三六本あった。従って、それら計八七本のカセットテープのデジタル化、内容把握、リスト作成を

行った。まず始めに、音声劣化を防ぐため、デジタルデータとして録音した。即ち、カセットデッキとコンピュータをステレオラインで接続し、全てのカセットテープを等倍速で録音した(44,100Hz, wav 16bit)。次に、デジタル化した音声を用いて、内容不明テープ三六本の内容把握を行った。その結果、内容不明テープ三六本は、内容把握済みテープの内の一部のコピーであることが判明した。その結果に基づいて、内容不明であった三六本のテープと内容把握済みのテープとの対応リストを作成した。

二、横山写真館の資料

横山写真館から、掛け軸を初めとする諸々の真宗大谷派文化財の写真撮影と、そのリスト作成の依頼を賜った。それら計三八六点を掛け軸、手紙など、同一グループに分類しつつ、デジタルカメラで写真撮影を行った。現在、写真撮影は全て終了し、それらの目録を作成している。

* パーリ語貝葉写本

大谷大学は、百年程前にタイ王室から寄贈されたパーリ語貝葉写本のコレクションを所蔵している。そのコレクションに対して、一九九五年に大谷大学図書館編『大谷大学図書館所蔵貝葉写本目録』が出版された。さらにその後、コレクション中の稀覯文献の一つである Pañāsajātaka の研究が始められた。

このような状況を受けて、写本の画像データ化と稀覯文献の抽出を行っている。しかし、大学所蔵のコレクションは大

量であるため、データ化する写本に優先順位をつけなければならぬ。現在の状況として、稀覯文献の約一〇套七〇 point の画像データ化を終了した。また、稀覯文献抽出作業の一環として、タイの寺院に所蔵されている文献の現地調査などを適宜行っている。

真宗同朋会運動研究

本研究は、真宗と社会との関わりを主題とし、具体的には真宗同朋会運動における求道と獲信に学ぶものである。したがって、本研究は、一人ひとりにおける「群萌の目覚め」に視点を置き、特に、求道の道程に焦点をあてて、一人ひとりの宗教的人格に触れることを通して、真宗同朋会運動の意義を明らかにすることを目的とする。

また、信仰が生み出す社会性、および人々の精神性に与えた影響なども調査を通して把握し、真宗同朋会運動の現状や社会的・現代的意義を明らかにしていきたい。

以上のことから、本研究は昨年度に引き続き、全体を理論編と調査編の二部構成として組み立てた。具体的な研究は以下のとおりである。

①理論編の成果…

基礎資料の作成…研究の基礎資料づくりとして、真宗大谷派宗門内で、同朋会運動に尽力され、リードした先達の思想などの整理をしていく。具体的には以下の人物に焦点をあてて、思想やその背景の把握につとめた。

- ・ 高光大船
- ・ 高光一也
- ・ 訓覇信雄
- ・ 松原祐善
- ・ 藤原鉄乘
- ・ 坂木恵定
- ・ 米沢英雄

他

② 調査編の成果…

公開研究会…同朋会運動の社会的意義を明確化していくために、宗門内・外両面からの意見・研究報告を公開研究会という形で、研究展開した。

二〇一〇年度四月以降の公開研究会は、本学響流館三階マールメディア演習室にて、以下の講師をお招きし開催した。

五月二〇日 上田閑照先生（京都大学名誉教授）

テーマ…清沢満之とは誰か

― 当時に於てそして現在の私たちにとって ―

七月二二日 亀井鑛先生

テーマ…真宗同朋会運動について

― その歩みと今後の展開 ―

現在は、これらの公開研究会をうけて、整理・分析を進めている。

二〇〇九年度研究会成果…昨年度、公開研究会にお招きし

た先生方の講演録を成文化している。

具体的には、下田正弘先生、マイケル・バイ先生、二階堂行邦先生、亀井鑛先生などであり、最終成果の中に盛り込むため、先生方と原稿のやり取りを進めている。

聞き書き調査の実施…本研究の中心であり、門信徒の方々に「聞き書き」という調査手法を用いた調査を展開した。また昨年度の調査に対する補足調査も同時に行っている。

本調査は、「聞き書き」という手法の特性から、1件あたりの調査時間に膨大な時間を要する。本年も昨年同様に、全国各地で10件の調査を行っている。詳細な調査結果については、ここでは省略させていただく。

その他の活動…本年度は、理論編および調査編への研究の展開に加えて、以下のような研究活動も推進した。

・ 真宗大谷派教学大会への研究発表（七月四日）

・ 真宗大谷派研修部などとのコラボレートにより、「親鸞キヤンプ」を開催し、広く学内の学生にも公開された、ご門徒の方々と学生との交流を実践した。（七月一日～二日）

・ 東京大学で開かれた「親鸞ルネッサンス」に参加し、広く「親鸞」を研究する方々との交流を図った。

・ 法蔵館と研究成果の出版に向けて会議を進めている。

以上が、二〇一〇年度の研究成果の概略である。二〇一一年度も引き続き、理論編・調査編ともに、深めていくことを

とおして、真宗同朋会運動の現代的意義を明らかにしていく。
そして研究成果の出版に向けて、具体的に展開していく予定
である。

執筆者紹介

(二〇二二年三月三十一日現在)

小谷信千代	本学名誉教授
秋本 勝	京都女子大学教授
福田 琢	同朋大学教授
本庄 良文	佛敎大学非常勤講師
松田 和信	佛敎大学教授
箕浦 暁雄	本学准教授
佐賀枝夏文	本学教授
水島 見一	本学教授
富岡 量秀	本学講師
村山 保史	本学准教授
西尾 浩二	本学非常勤講師
村上 徳樹	本学特別研究員

ダッシュシヨバラニ

渡部 洋	本学准教授
松川 節	本学教授
小野 浩	京都橘大学教授
古松 崇志	岡山大学准教授
石野 一晴	日本学術振興会特別研究員
毛利 英介	京都大学非常勤講師
伴 真一朗	本学博士後期課程修了
清水奈都紀	奈良大学非常勤講師
山本 貴子	本学准教授
田中久美子	本学准教授
鈴木 寿志	本学准教授
柴田みゆき	本学准教授